

SHOW-HHEYシネマルーム

あの日、欲望の大地で

2008年・アメリカ映画
配給 / 東北新社・106分

2009(平成21)年8月6日鑑賞

GAGA試写室

Data

監督・脚本：ギジェルモ・アリアガ
出演：シャーリーズ・セロン / キム・ベイシングー / ジェニファー・ローレンス / ジョン・コーベット / ヨアキム・デ・アルメイダ / ダニー・ピノ / J・D・バルド / ホセ・マリア・ヤスピク / プレット・カレン / テッサ・イア

👁️👁️ みどころ

脚本家ギジェルモ・アリアガの初監督作品は、『バベル』(06年)、『21グラム』(03年)と同様、時代と場所を錯綜させながら複数の物語が展開する結構ややこしいもの。しかしそうだからこそ、あっと驚く新鮮さとアカデミー賞2大女優の身体を張った演技の感動が。本作にみる不倫の結末は『失樂園』以上に最悪だが、子供たちはそれといかに向き合うの? メキシコ国境の町で展開される、現代版『ロミオとジュリエット』の物語に心を打たれること必至。たまには腰を据えて、こんな名作をじっくりと。

2大女優の娘母共演に、若手女優がもう1人!

『モンスター』(03年)でアカデミー賞主演女優賞などを受賞したシャーリーズ・セロンと、『L.A.コンフィデンシャル』(97年)でアカデミー賞助演女優賞などを受賞したキム・ベイシングーが、娘母役で初共演! そう聞くと一瞬「それは年齢的に無理なのは・・・?」と思ったが、シャーリーズ・セロンは1975年、キム・ベイシングーは1953年生まれだから、あながち無理ではない。なるほど、それも有り?

ところが事前のネット情報によれば、『バベル』『21グラム』の天才脚本家ギジェルモ・アリアガの初監督作は、愛ゆえに深い傷を抱える人がもがき、苦しみがらも再び愛によって希望を見出ししていく姿を、時代と場所を越えて描き出した3世代の女性の感動ドラマ」とある。しかし映画を観ていても、なぜ3世代なのかが容易に理解できないはずだ。それは、そもそもキム・ベイシングー演ずるジーナがシャーリーズ・セロン演ずるシルビアの母親だという説明が何もされないまま、複数のストーリーが展開されていくからだ。

他方、2008年の第65回ベネチア映画祭で絶賛された本作でマルチェロ・マストロヤンニ賞（新人賞）を受賞した美少女ジェニファー・ローレンスが登場する。すなわち、物語の進行上明らかにキム・ベイシングー演ずるジーナの娘（長女）はジェニファー・ローレンス演ずるマリアーナであり、中盤からはこのマリアーナが重要な役どころを担っていくから話がややこしい。映画は便利な芸術だから、時代と場所を自由に移すことができる。したがって、こりゃきつとどこかに、何らかのカラクリがあるはず。

それをここで言うってしまうとすべてがおしまいになるので書けないのがつらいところだが、『バベル』（06年）や『21グラム』（03年）と同様、緻密に計算された脚本の面白さをじっくりと味わいたい。



(C)2008 2929 Productions LLC, All rights reserved.

『あの日、欲望の大地で』DVD

発売予定日 2010年3月19日（金） ¥3,990（税込）

いきなりのヌードシーンにびっくり！

シャーリーズ・セロンはハリウッドを代表する美女だから、映画冒頭いきなりそのフルヌードシーンが登場すれば、ギジェルモ・アリアガ監督のサービス精神に感謝すると同時にびっくりするはず。シルビアはポートランドの海辺の上に建つ高級レストランのマナー

ジャーとしてテキパキ仕事をこなしているキャリアウーマンのように見えるが、時折り見せる物憂げな表情は、いわくあり気。そんなシルビアは店のシェフ、ジョン（ジョン・コーベット）をはじめ、客を含む何人かの男と行きずりの情事をくり返しているようで、映画の冒頭登場するのはそんなワンシーン。美貌と演技力を兼ね備えたハリウッドビューティーの第一人者であるシャーリーズ・セロンがそんな複雑なシルビア役を見事に演じている。

物語が急展開するのは、あたかも素行調査をするようにシルビアにつきまとうメキシコ人男性カルロス（ホセ・マリア・ヤスピク）の登場から。私は一瞬、カルロスもシルビアの浮気相手の一人かと錯覚したが実はそうではなく、彼はシルビアのことをマリアーナと呼び、さらに12歳の少女マリア（テッサ・イア）を連れていたから、話はややこしそう。これをみると、シルビアには一体どんな痛ましい過去が？なるほど、そんな過去の傷を抱えたまま今を生きているから、シルビアはどこか投げやりなところがあり、行きずりの情事をくり返したり、自傷行為に及んだりしているわけだ。

しかして、そんなシルビアの再生は？もちろんそれが本作の目指すテーマだから、映画後半はそれに注目！

この不倫は最悪！

妻と愛する子供たちを持つ男と、夫と愛する子供たちを持つ女が不倫に落ちることは世の中によくあること。そんな場合の「心中」という、渡辺淳一が描いた『失樂園』の悲劇的な結末はよく知られている。しかし、本作にみるニューメキシコ州の国境の町で夫ロバート（ブレット・カレン）や娘のマリアーナだと暮らす人妻ジーナと、隣町に住むメキシコ人の男ニック（ヨアキム・デ・アルメイダ）との不倫の結末は、残された家族にとってもっと最悪！だって、2人が秘密の逢瀬の場所として中間地点のトレーラーハウスを使っていたのはいいが、それが爆発して2人とも死亡した時、2人は繋がったままだったらしいから。

ニックの葬式に、妻は参列を拒否。仕方なく息子のサンティアゴ（J・D・バルド）たちだけが参列したが、それを遠くから憎々しげに見ていたのが、妻ジーナを失った夫のロバートと長女マリアーナたちだ。もちろん2つの家族のお葬式は別々の場所で行われたが、これによって両家がシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』におけるモンタギュー家とキャピュレット家のような敵同士となったのは当然だ。

国境の町にも『ロミオとジュリエット』の物語が

思春期の真っ只中、最悪の形で父親ニックを失ったサンティアゴと母親ジーナを失ったマリアーナは、まさにモンタギュー家のロミオとキャピュレット家のジュリエットのようなもの。ロミオとジュリエットが出会ったのは偶然だったが、本作が描くサンティアゴと

マリアーナの出会いはそのではなく、サンティアゴからの積極的な働きかけによるものだ。そのきっかけは、サンティアゴがニックの葬式を憎々しげに見ていたマリアーナの姿を見て、なぜ父親がジーナとの不倫に走ったのか、そしてトレーラーハウスの中で炎に包まれた時、父親は何を思ったのかの答えを、同世代のマリアーナに聞きたいと考えたこと。しかし、誰が考えてもそれはかなり無茶な話。

もっとも、サンティアゴが密かにマリアーナの前に現れた時、なぜマリアーナがきっぱりとサンティアゴとの対話そのものを拒否しなかったのが本作の脚本のミソ。しかして、「父親にバレたら殺される！」と警告しつつ、マリアーナが密かにサンティアゴとの出会いを重ね、互いの思いを打ち明けあったのはなぜ？そこらあたりが本作の中盤のハイライトだ。

もちろんサンティアゴがマリアーナを恋人としてゲットしようと考えていたわけではないが、互いの父親像と母親像を語り合い、互いの父親、母親が愛した女と男を重ね合う中、若い2人が父親、母親と同じように愛し合うようになったのは、ある意味自然の流れかも？つまり、これによって国境の町にも『ロミオとジュリエット』の物語が生まれたわけだが、これは絶対に認められることのない禁断の恋。そんな禁断の恋がバレたことによってロバートが激怒する中、マリアーナは涙ながらにサンティアゴに対して「一緒に逃げて！」と訴えたが・・・。

再生と希望のストーリーは、あなた自身の目で！

『モンスター』（『シネマルーム6』238頁参照）も『L.A. コンフィデンシャル』も結構ややこしい物語だった。また『バベル』も『21グラム』も時代や舞台が複雑に錯綜するややこしい物語だった（『シネマルーム14』340頁、『シネマルーム4』257頁参照）。そして、ハリウッドを代表する2大女優キム・ベイシングーの不倫とシャーリーズ・セロンの行きずりの情事を真正面から打ち出した本作も、結構ややこしい物語。

もちろん本作のテーマは、時代と場所を越えて描かれる3世代続く女性たちの再生と希望だが、メキシコ人男性カルロスと12歳の少女マリアの登場によってあれほど動揺し、とまどうシルビアの再生とは？そしてまた、そこでシルビアが見出した希望とは？

ラストが近づくにつれて少しずつ明かされていくそんなストーリーをここでバラすわけにはいかないのは当然だから、それはあなた自身の目で。ただここで私がはっきり断言できるのは、ギジェルモ・アリアガ監督の脚本のすばらしさと、2大アカデミー女優の文字どおり身体を張った演技のすばらしさ。シャーリーズ・セロンの美貌は当然だが、一瞬スクリーンで観たキム・ベイシングーの全裸シーンを思い出ししながら、本作の感動を胸に刻みたい。

2009（平成21）年8月7日記